

「特産種苗」バックナンバー

当協会のホームページに、PDF 版を掲載しています。
「特産種苗 情報誌」で検索してください。

号	発行年月	特 集 内 容
1	2009年 1 月	創刊号、雑豆（小豆、菜豆、その他）
2	2009年 4 月	雑穀（アワ、ヒエ、キビ、その他）
3	2009年 7 月	ハトムギ
4	2009年 9 月	雑穀類の生産状況（平成17～20年産）
5	2009年10月	油糧作物（ナタネ、ヒマワリ、ゴマ、オリーブ）
6	2010年 1 月	甘しょ
7	2010年 4 月	ばれいしょ
8	2010年 8 月	アマランサス・キノア
9	2010年11月	雑穀類の生産状況（平成17～21年産）
10	2011年 3 月	ソバ
11	2011年 8 月	6次産業化
12	2011年11月	甘味資源作物
13	2012年 2 月	雑穀類の生産状況（平成18～22年産）



編集後記

【編集後記】

本号では特集として、「特産農作物に係る品種の収集・保存、種苗の増殖・配布」を取り上げました。

遺伝資源は従来の品種にはない新たな特性を有しており、画期的な新品種育成の素材として期待されています。

近年、地球環境の悪化や栽培品種の均一化等により作物の遺伝資源の多様性は急速に失われるとともに、国際的には生物多様性条約等の発効により海外の遺伝資源の取得が制約を受けつつあると言われています。

このような中で6次産業化の推進等昨今の農政の課題に対応していくためには、多様な品種を育成していくことが重要であり、このためには遺伝資源の収集・保存、増殖・配布が重要になっていきます。

農業分野では農業生物資源研究所を中心に農林

水産省傘下の独立行政法人が連携し、遺伝資源の収集・保存等が一体的に行われています。

また、都道府県においては、最近では失われつつある在来品種を見直し、育種素材として利用する他、伝統野菜として復活させ、種子等の配布を通して地域の経済効果が高まった地域も出現してきています。

本稿では、行政及び研究機関における品種の収集・保存、種苗の増殖・配布に係る取り組みについて、これまでの経緯も含めてご紹介いただきました。

お忙しい中、ご寄稿下さいましたご執筆者の方々に心より御礼申し上げます。

本特集号が各地域での在来品種の再発掘や新たな品種の育成を企画・検討する上でお役に立ち、地域の振興・発展の一助となれば幸いです。

（佐々木記）

発行日 平成24年10月 1 日
発 行 財団法人 日本特産農作物種苗協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 2 丁目 4 番 1 号
白亜ビル 3 階
T E L 03-3586-0761
F A X 03-3586-5366
U R L <http://www.tokusanshubyo.or.jp>
印 刷 (株) 丸井工文社